

五 国語調査に就て(明治三十五年七月)

加藤 弘之

『教育時論』(明治三十五年七月号)に発表されたもので、国語調査委員会が明治三十五年七月に決議、発表した同会の調査方針(「国語調査委員会決議事項」本資料集所収)について、委員長として説明したもの。加藤弘之(一八三六—一九一六)は哲学者、啓蒙思想家で、東京大学総理、東京帝国大学総長、枢密顧問官、帝国学士院長。国語調査委員会委員長。

国語調査委員会は成立以来九回会合した、世間では、委員は何を愚図愚図して居るかと思ふかもしれぬが、固より問題が問題であるから、軽佻に議論することも出来ず、多数決で決行するといふ訳にゆくものでないから、出来るだけ慎重にし、出来るだけ急ぎ、種々調査を重ね評議をして、九回の集会后、将来準拠すべき調査の大方針を定めたので、其の他には及んで居らぬが、国語問題に就いては、目下の急務に属する事項が沢山あるから、此の方は根本問題の如何に決着するに拘らず、兎角の断案を下さねばならぬので、この応急部分に対しても亦相談をして、調査事項の種類と範囲とを定めた、即ち其の大方針といふのは、

- 一、文字は音韻文字「フォノグラム」を採用することとし、仮名羅馬字の得失を調査すること、
 - 二、文章は言文一致体を採用することとし、之に関する調査を為すこと、
 - 三、国語の音韻組織を調査すること、
 - 四、方言を調査して標準語を選定すること、
- といふ四件になるので、一寸見れば簡単なる事柄の様であるが、これだけの事を定めるのも、容易なことではない、何故にかく定められたかといふ理由を説明すれば、随分詳細に立入った議論をせねばならぬのである、さて以上四件の中で確定して居る事項は、音韻文字を採用すること、文章は言文一致体を採用することとの二件で、この決定は将来動かさぬのである、即ちこの方針によれば音韻文字を採用するのであるから、無論象形文字たる漢字は使用せぬことに定めたのである、然し均しく音韻文字と謂つても色々あるが、如何なる音韻文字を採用するかは、未だ決定しない、たゞ、仮名と羅馬字との長短を比較し、其の得失を調査するといふ方針だけを定めた、文章は言文一致体を採用するから従来の如き日常の言語と懸け放れて居る文体は排斥するのである、調査委員会は将来以上の大方針に準拠して慎重な調査を遂げる筈であるが、これが決着するのは、なか／＼容易なことではあるまい。

次に普通教育に於ける応急の手段として、調査を急ぐ事項は、左の件々である。

一、漢字の節減に就て

二、現今普通文体の整理に就て

三、書簡其の他日常慣用する文体に就て

四、国語仮名遣に就て

五、字音仮名遣に就て

六、外国語の写し方に就て

就中最も急を要するもので、議論の多いは、仮名遣の問題である、先年文部省で定めたのは、字音仮名遣のみで、国語仮名遣には及んで居らぬのであるが、これは一方の改正だけではいけぬ、必ず一般の仮名遣を改正せねばならぬ、先に其の一方のみを定めて、全般に及ばなかつた為に、却つて混雑を致し、色々区々な仮名遣が出来て、結局児童の苦痛を除く目的で作つた者が、却つて苦痛を増す様な結果になる有様であるから、この問題は、至急に調査を遂げて一定の規則を作らねばならぬ、そこでこれに就いては、会でも、色々議論が出たが、かの文部省で出した字音仮名遣に対しては、異論も少くないので、大体委員間には、文部省の字音仮名遣の規定を、国語仮名遣にも適用しようといふ論と、此の字音仮名遣の規定は、宜しくないといふ論と二つの意見があるその反対論者の説は、一を否定するにあるので、この一は片仮名の間に

交ぜて書くときにはよいが、平仮名の時には、しと混じて間違ひ易い、又之を以て一個の符と見るはよいが、字としては不適當であるといふ、之に対して賛成論者の方は、一を延音を表はすに用ひることは、今度創めたことではない、古來この用方はあるのである、それからこれが字として不適當であるとしてもどうも他に適當のものが無いから仕方がないといふので、なか／＼決まりがつかぬ。それから同じくオーと発音する語でも従來の仮名遣によれば、おう、あう、あふ、な、ど、い、ろ、く、あ、つ、て、これは不便極まるものであるが、之を皆一定して、おうなり、おなりにすることは便利であらうと思ふが、これにすら反対論がある、それで本に返ることになる、兎に角一一つで大変に喧ましい議論が出る位だから全体を決めるまでは嘸紛々たることであらう。

要するに、調査すべき問題は、非常な大問題で、其の影響の及ぶ所、目前一時の事に止まるものでないから、委員会では、成るべく其の問題をも、成績をも世間に公表し、広く世間の意見を蒐集し、後で悔いなき様に慎重に調査を遂げる積である、それゆゑ世間に向かつては、既に調査の問題も提出してあるが、成るべく沢山に意見が集まることを希望して居るのである。(談)